



発行：バリアフリー推進ネットワーク事務局（交通エコモ財団）

---

目次

(1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

交通バリアフリー推進の集い報告について

交通バリアフリー推進の集い交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について

(2) ネットワーク参加団体からのお知らせ

移送・移動サービス運行団体運転ボランティア育成研修会 第2回研修会（全10回）

（東京バゲイブ連絡会）

運転協力者リーダー養成講座（東京バゲイブ連絡会）

第17回 日本福祉のまちづくり関西セミナー（日本福祉のまちづくり学会）

荒川区基本構想点訳版（あふネット）

荒川区交通バリアフリー基本構想・あふネットの取り組み点訳版、音訳版（あふネット）

旅客船及び旅客船ターミナルにおけるバリアフリーに関する調査研究（（社）全国脊髄損傷者連合会）

(3) エコモからのお知らせ

平成15年度交通バリアフリー活動に対する助成について

平成15年度交通バリアフリー施設整備助成制度について

身体障害者操縦免許講習指導者マニュアル（財団法人マリンスポーツ財団）について

らくらくおでかけネットアドレス変更のお知らせ

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

公共交通機関旅客施設の移動円滑化ガイドライン追補版が発刊

(4) 行政からのお知らせ

交通バリアフリー法基本構想策定状況

(5) 各種催し物のお知らせ

第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議 TRANSED 2004

第6回国際福祉健康産業展 ウェルフェア2003

第37回日本作業療法学会併設展示会「西日本国際福祉機器展リミテッド」

第18回リハビリ工学カンファレンス 介護・福祉用具と環境整備 ～制度とその活用～

第30回国際福祉機器展 H.C.R.2003 開催要項

第5回西日本国際福祉機器展

(6) その他

書籍に関して

記事募集中

お願い（必ずお読みください。）

・転送先について

・送付先について

コラム

---

## (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

### 交通バリアフリー推進の集い報告について

昨年11月15日に実施しました交通バリアフリー推進の集いについて、当日実施しましたアンケート結果や、パネルディスカッションの概要をまとめました。ホームページに掲載しておりますので、ご覧ください。

<http://www.ecomo.or.jp/>

### 交通バリアフリー推進の集い、交通バリアフリー推進セミナー報告書配布について

昨年11月15日に実施しました交通バリアフリー推進の集いを実施いたしました。当日配付資料をご希望の方は、ご連絡ください。また、平成13年度1年間で、全国10カ所で開催しました交通バリアフリー推進セミナーの報告書を作成しました。また、当日配付資料もございますので、ご希望の方は、ご連絡ください。

## (2) ネットワーク参加団体からのお知らせ

### 移送・移動サービス運行団体運転ボランティア育成研修会 第2回研修会(全10回)

(東京バディキャブ連絡会)

2002年10月に開催されたDPI世界会議札幌大会では、参加者の移送・移動は全道・全国より集まった移送・移動サービス団体の協力により行われました。この経験を通じて移送サービスの必要性は確たるものとして認識され、広く一般の市民にも認知されました。また一方、新たに人工呼吸器などの特殊な福祉用具の取り扱いの知識、安全面に配慮した運転技術や介助技術の習得という課題が、今後のサービス普及には必要不可欠であることも、この大会に関わった多くの者の共通認識となりました。

この研修会は、重度の障害を持っていても、いつでも、どこでも誰もが自由に外出できる社会を目指して行われる移送・移動サービスの普及を図ることを目的に、リフト付車輛を使用して、車いす利用者などの移動制約者に対する外出支援を行う運行ボランティア団体の設立を希望する方、移送・移動サービスの運転ボランティア、介助ボランティアを希望する方を対象として全10回の予定で行います。

今回は特に、DPI世界会議での、人工呼吸器使用者などの移送事例を通して得られた知識の普及に重点を置いています。

第1回 日時 5月17日(土)13:00~17:00 終了

第2回 日時 5月25日(日)9:00~12:00

会場 北海道難病連 北海道札幌市中央区南四条西10

内容 1. 運行団体の立ち上げ(1)仲間づくり

2. リフト車の構造について 金澤敏弘氏(北海ポデー工業(有)社長)

3. 車いすの種類とその仕組みについて 竹田保氏(ポップ障害者地域生活支援センター)

参加費 10回参加10,000円(1回のみ参加2,000円)

定員 30名(先着順)

申込・問合せ先 STネット北海道事務局

〒065-0020 北海道札幌市東区北二十条東1-5-1 大西ビル1F

ポップ障害者地域生活支援センター内

TEL011-748-6220 FAX011-748-6221 E-mail info@stnet-hokkaido.jp

### 運転協力者リーダー養成講座(東京バディキャブ連絡会)

移動・送迎サービスにおける一層の安全と安心の確保に向けて、「運転協力者リーダー養成講座」(全3回)を下記要領にて開催いたします。

ご承知の通り国土交通省「ガイドライン」策定にあたっては「安全性担保」が重要な位置を占めています。団体間の統一安全基準による初めての講座開催となりますので、運転協力ご経験者の皆様につきましては奮ってご参加いただきたく宜しくお願い申し上げます。

日時 第1回 5月25日(日)13:00~17:00

第2回 6月22日(日)13:00~17:00

第3回 7月27日(日)13:00~17:00

会場 こうべ甲南「武庫の郷」兵庫県神戸市東灘区御影塚町4-4-8

内容 第1回 第1部「講演」小池裕氏

(神戸市社会福祉協議会福祉活動部ボランティア情報センター所長)(予定)

第2部 講義と実技指導 柿久保浩次氏(関西STS連絡会事務局)

対象 各移動・送迎サービス団体の運転協力経験者(何人でも可)

参加費 連続受講(計3回)1,500円 テキスト代1,200円

毎回お一人につき500円を徴収させていただきます。

連続3回受講された方には、ご希望により「修了書」(手数料500円)を発行。

3回の受講で完結するカリキュラムですので、極力、連続受講をお願いいたします。

申込・問合せ先 阪神移動サービスネットワーク

〒657-0024 兵庫県神戸市灘区楠丘町2-1-12 寿ボランティアグループ気付

TEL&FAX078-821-3222 E-mail idou@hanshin.forum.ne.jp

#### 第17回 日本福祉のまちづくり関西セミナー(日本福祉のまちづくり学会)

テーマ 「福祉を評価すること」

講師 : 後藤玲子氏(国立社会保障・人口問題研究所研究室長、立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

コーディネーター: 新田保次氏(大阪大学大学院工学研究科 教授)

セミナーのご案内

福祉のまちづくりを推進していく上で、どのような施策を実施すべきかを決定するためには、「福祉を評価すること」が欠かせません。経済学においても、「福祉」を評価し、社会政策をどのように決めていくかは解決しなければならない重要課題として、様々な取り組みがなされてきました。この一つの成果が、1998年にノーベル経済学賞を受賞したアマルティア・センによって提唱されている「潜在能力アプローチ(Capability Approach)」です。

このアプローチでは、人の満足で評価した際に見落とししてしまう、人々が感じる困難を発見し、本当の不公平を明らかにすることを目的としています。さらに、人間が生き方を考慮し、「人間は多様な存在である」という前提で人間の「福祉」と「自由」を評価し、様々な「不平等」について「何についての平等か」を明確にしながらかつ分析する手法です。

本会の講演者・後藤玲子氏は、センの理論を正確かつ明瞭に描写しうる日本で数少ない研究者です。また、経済学・倫理学の造詣が深く、このセンの潜在能力アプローチに大きな影響を与えたロールズの「正義論」についても説明していただくことになっております。「経済学においてどのように福祉を評価しようとしているのか」を理解する絶好の機会ですし、福祉のまちづくりにさまざまな分野において携わる人々にとっても、多くのヒントを得られるものと確信しています。

なお、今回の講演では、経済学以外の専門家の人々が多く参加されることを考え、できるだけ平易にお話していただけるようお願いしています。多数のご参加を期待しています。

大阪大学大学院工学研究科 教授 新田保次

講演者略歴

後藤 玲子(ごとう れいこ) 一橋大学法学部卒 経済学博士

国立社会保障・人口問題研究所研究室長

立命館大学大学院先端総合学術研究科教授

専門分野 経済哲学

主な著書・論文 「正義の経済哲学：ロールズとセン」、「アマルティア・セン：経済学と倫理学」(共著、実教出版) "The Capability Theory and Welfare Reform," *Pacific Economic Review*, 6:2, 211-222.

日時: 平成15年6月27日(金) 受付開始; 18時15分~

18:45~19:00 インタロダクション(新田保次氏)

19:00~20:00 講演「福祉を評価すること」(後藤玲子氏)

20:00~20:30 ディスカッション

会場: 中央復建コンサルタンツ 2階大会議室(新大阪駅より徒歩5分)

(地図は受付後にお送りする参加証に提示します。こちらでもご覧いただけます。)

<http://www.cfk.co.jp/gr/ja/index.html>

住所 大阪市東淀川区東中島4丁目11番10号、電話06-6160-1121、FAX06-6160-1127

交通 JR「新大阪駅」より5分、地下鉄御堂筋線「新大阪駅」より徒歩10分

参加費：会 員（500 円）、非会員（1000 円）

申し込み方法：下記の回答用紙の各項目に記入の上、E-mail であれば各項目をお書き添えの上、FAX であれば下記部分をお切り取りの上、上記申し込み・問合せ先まで回答ください。なお関西支部の HP <http://www.assistech.hwc.or.jp/gakkai-kansai/csvmail17ks.htm> から、簡単にお申し込みいただけます。

申し込み・問合せ先：日本福祉のまちづくり学会関西支部事務局・糟谷(カスヤ)

（兵庫県立福祉のまちづくり工学研究所内）

〒651-2181 神戸市西区曙町 1070 電話：078-925-9283 Fax：078-925-9284

Email：gakkai-west@assistech.hwc.or.jp

参加証の発行：今回の会場の中央復建コンサルタンツは、18 時以降は通用門からの出入になります。その際、係りの方にこちらからお送りする参加証を提示してください。当日お忘れになった方は、身分を証明するものを提示の上、お名前をおっしゃってください。

#### 荒川区基本構想点訳版、音訳版（あふネット）

全国で取り組みが進んでいる交通バリアフリー法に基づく基本構想策定において、東京都荒川区の基本構想が平成14年3月25日に受理されました。その基本構想独自の概要版の点訳版(2冊組)、音訳版を、調査・策定作業に携わったあふネットが作成いたしました。現在、交通エコモ財団にご寄付頂きました資料を貸出ししております。ご興味のある方は、交通エコモ財団バリアフリー推進部までお問い合わせください。 FAX：03-3221-6674 E-mail：ecomomail@ecomomail.or.jp

#### 荒川区交通バリアフリー基本構想・あふネットの取り組み点訳版、音訳版（あふネット）

昨年度、交通バリアフリー活動に対する助成で作成されました、「荒川区交通バリアフリー基本構想・あふネットの取り組み」が点訳、音訳されました。点訳版は4冊組、音訳版は10本組となっております。こちらの資料を貸出ししておりますので、ご興味のある方は、交通エコモ財団バリアフリー推進部までお問い合わせください。 FAX：03-3221-6674 E-mail：ecomomail@ecomomail.or.jp

#### 旅客船及び旅客船ターミナルにおけるバリアフリーに関する調査研究（(社)全国脊髄損傷者連合会）

社団法人全国脊髄損傷者連合会では、車いす使用者の利用は困難と考えられている海上交通機関に着目し、旅客船及び旅客船ターミナルのバリアフリーの現状について車いす使用者の視点から調査を実施しました。調査対象は、国内の一般旅客定期航路事業に用い供する5t以上の船舶と全国の旅客ターミナルとなっています。ご興味のある方は、(社)全国脊髄損傷者連合会までお問い合わせください。

〒134-0085 江戸川区南葛西5-13-6 TEL03-5605-0871 FAX03-5605-0872

E-mail tsumaya@mx1.alpha-web.ne.jp <http://www.ak.wakwak.com/~sij/>

### (3) エコモからのお知らせ

#### 平成15年度交通バリアフリー活動に対する助成について

当財団は、これからの高齢社会の到来に備え、また障害者の社会参加を促進するため、高齢者や障害のある方々の移動円滑化を促進するボランティア団体等の行う交通バリアフリー活動に対して、その活動資金の一部について助成していくことにいたしました。詳細や応募方法については、当財団のホームページ (<http://www.ecomomail.or.jp/>) をご覧ください。なお、本年度は助成申請期間を、8月末までとしましたので、ご注意ください。

また、昨年の助成団体報告もホームページに併せて掲載しておりますので、ご参照ください。

#### 平成15年度交通バリアフリー施設整備助成制度について

海上交通におけるバリアフリー化を促進するため、日本財団からの助成金を受けて、旅客船（改造・新造）並びに旅客船ターミナルの施設・設備について助成を行います。

重点項目：本年度は次の施設整備について重点的に助成します。

旅客船バリアフリー化のモデルとなるような高齢者や障害者等の移動の円滑化を総合的に講じた旅客船波及効果が期待されるバリアフリー効果の高い施設・設備

上記、は離島航路で通院、通学、通勤の足として日常的に利用する生活航路の旅客船を優先し、国費等の助成対象を除きます。

申請受付期間：平成15年6月1日～7月31日まで

助成率等：

ア) 旅客船バリアフリー化のモデルとなるようなものについては、助成対象経費の50%以内、2千万円を限度に助成

イ) 上記以外の旅客船については、助成対象経費の20%以内、1千万円を限度に助成

ウ) 旅客船ターミナルについては、助成対象経費の20%以内、1千万円を限度に助成

お問い合わせ先：交通エコロジー・モビリティ財団 バリアフリー推進部 菅井

TEL:03-3221-6673 E-mail:h-sugai@ecomor.or.jp

身体障害者操縦免許講習指導者マニュアル(財団法人マリンスポーツ財団)について

平成13年11月、船舶職員法施行規則が改正されたことにより、受験対象者が広がり、身体障害者の方も受験可能となりました。そこでマリンスポーツ財団では、身体障害者の方が安全にマリンスポーツを楽しめる体制づくりとして、操縦免許取得のための講習に従事する指導者の育成を目指しマニュアルを作成しました。

お問い合わせは、財団法人マリンスポーツ財団(Maris)まで。

〒105-0001 港区虎ノ門1-15-16 海洋船舶ビル8F TEL03-3519-3903 <http://www.maris.or.jp>

らくらくおでかけネットアドレス変更のお知らせ

沢山の方にご利用頂いているらくらくおでかけネット(交通バリアフリー情報提供システム)のアドレスが新しくなっております。

アドレス:(パソコン版) <http://www.ecomor-rakuraku.co.jp/rakuraku/index/>

(携帯版=i-mode,j-sky) <http://www.ecomor-rakuraku.co.jp/rakuraku/mobile/>

(携帯版=EZ-web) [http://www.ecomor-rakuraku.co.jp/rakuraku/mobile\\_ez/](http://www.ecomor-rakuraku.co.jp/rakuraku/mobile_ez/)

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

「公共交通ターミナルのバリアフリー度評価に関する簡易評価マニュアル」を公開しておりますが、本評価マニュアルは、あくまでも地域のボランティア、市民グループ、学生の皆様などが自主的に評価に取り組まれる時(地域の基本構想作成時などが考えられます)にお役立ていただく方法として、提供させていただいておりますので、ご自由にお使いいただければと思います。なお、鉄道事業者等との対応に際しましては、エコモから依頼しているものではありませんので、誤解のないよう、よろしく願いいたします。

公共交通機関旅客施設の移動円滑化ガイドライン追補版が発刊

平成12年11月15日、「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を利用した移動の円滑化の促進に関する法律(交通バリアフリー法)」及び同法に基づく移動円滑化のために必要な旅客施設及び車両等の構造及び設備に関する基準が定められました。この移動円滑化基準が義務基準として遵守すべき内容を示したものであるのに対し、多様な利用者の多彩なニーズに応え、すべての利用者がより円滑に利用できるよう、公共交通機関の旅客施設整備の望ましい内容を示すものとして「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」が平成13年8月策定されました。

しかし、本整備ガイドライン作成のための検討の中で、いくつかの課題が残されることとなり、視覚障害者の移動支援方策、視覚障害者誘導用ブロックの個別箇所の敷設方法などが視覚障害者の移動支援設備については、なお議論や検討が必要であるため本整備ガイドラインに盛り込むことができませんでした。

そこでこれらについては、本整備ガイドラインの策定後、検討を進め、このたび視覚障害者に対しニーズ調査、検知・検証実験を踏まえ、音による案内の具体的な検討を行い、個別の音案内ガイドライン、鉄軌道駅プラットフォーム縁端警告用内方表示ブロック及びプラットフォームの柱や構造物が干渉する場合の敷設について、検討結果がまとまりましたので、「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン追補版(平成14年12月)」として発行することとなりました。

お申し込みは当財団ホームページから直接お申し込みください。FAX03-3221-6674(1冊1,000円税込)

み、送料別)

[http://www.ecomo.or.jp/barrier\\_free/guidetuihoban.html](http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/guidetuihoban.html)

#### (4) 行政からのお知らせ

交通バリアフリー法基本構想策定状況

基本構想を作成済みの市区町村 69 市区町村

福岡県福岡市、北海道室蘭市、広島県呉市、千葉県千葉市、山梨県石和町、大阪府守口市、鳥取県鳥取市、新潟県亀田町、大阪府交野市、大阪府八尾市、千葉県船橋市、北海道千歳市、大阪府堺市、福岡県大牟田市、東京都荒川区、富山県小杉町、福岡県福岡市、兵庫県明石市、香川県丸亀市、石川県金沢市、北海道恵庭市、埼玉県熊谷市、神奈川県相模原市、滋賀県守山市、大阪府河内長野市、広島県広島市、神奈川県秦野市、福岡県北九州市、大阪府豊中市、長崎県佐世保市、京都府長岡京市、長崎県長崎市、長野県諏訪市、岐阜県各務原市、岐阜県可児市、神奈川県藤沢市、千葉県柏市、福岡県古賀市、静岡県静岡市、大阪府東大阪市、富山県魚津市、千葉県袖ヶ浦市、大阪府阪南市、兵庫県宝塚市、兵庫県神戸市、東京都羽村市、東京都北区、新潟県新発田市、愛知県春日井市、静岡県焼津市、大阪府柏原市、大阪府大阪狭山市、大阪府茨木市、新潟県長岡市、愛知県名古屋市中区、大阪府藤井寺市、北海道遠野町、東京都千代田区、三重県津市、宮城県仙台市、大阪府堺市(2)、鹿児島県鹿児島市、大阪府八尾市(2)、東京都武蔵野市、岐阜県穂積町、埼玉県深谷市、大阪府吹田市、東京都八王子市、大阪府柏原市(2)、北海道札幌市、兵庫県姫路市、山口県菊川町

詳細に関しては、国土交通省のホームページをご覧ください。

#### (5) 各種催し物のお知らせ

第10回高齢者・障害者のモビリティと交通に関する国際会議 TRANSED 2004

日 程：2004年5月23日(日)～26日(水)

場 所：浜松市 アクトシティ浜松(JR浜松駅より徒歩3分)

主 催：(社)土木学会、TRANSED 2004 実行委員会 <http://tranned.jp/>

共 催：Transportation Research Board, USA

後 援：国土交通省、静岡県、浜松市、DPI 日本会議、日本盲人会連合、日本建築学会、

日本福祉のまちづくり学会、(財)国土技術研究センター、交通エコロジー・モビリティ財団他

お問い合わせ先：〒102-0083 東京都千代田区麹町5-7 秀和紀尾井町 TBR ビル 808

交通エコロジー・モビリティ財団

tel:03-3221-6673 fax:03-3221-6674 E-Mail: info@tranned.jp, d-sawada@ecomor.jp

なお、現在論文概要を募集しています。期限は、2003年5月31日までです。詳細はTRANSED 2004 実行委員会ホームページ <http://tranned.jp/> をご参照下さい。

第6回国際福祉健康産業展 ウェルフェア2003

日 時 5月23日(金)～25日(日)10:00～17:00

会 場 ポートメッセなごや(名古屋市国際展示場)

・JR東海道線名古屋駅・名鉄バスセンター4F 8番乗り場(片道200円)

・地下鉄名古屋港駅・市バスターミナル 1番乗り場(無料)

主 催 名古屋国際見本市委員会 (福)名古屋市総合リハビリテーション事業団

入場料 無料

内 容 147社・団体

問合せ先 名古屋国際見本市委員会事務局

TEL052-735-4831 FAX052-735-4836 <http://www.u-net.city.nagoya.jp/welfare/>

第37回日本作業療法学会併設展示会「西日本国際福祉機器展リミテッド」

日 程：平成15年6月26日(木)～28日(土)

場 所：西日本総合展示場新館

参加料：入場無料

主 催：(財)西日本産業貿易見本市協会

共 催(予定)：(社)日本作業療法士協会、(社)福岡県作業療法協会、(社)福岡県理学療法士会、北九州市

後 援(予定)：厚生労働省、福岡県、(社)日本看護協会、(社)日本理学療法士会、(社)日本整形外科

学会、(社)日本リハビリテーション医学会、(社)日本精神病院協会、(社)全国老人保健施設協会、(社)福岡県医師会

第 18 回リハ工学カンファレンス 介護・福祉用具と環境整備 ～制度とその活用～

リハ工学カンファレンスでは、障害のある方のリハビリテーションを支援する機器や技術について、リハビリテーションに関係するさまざまな分野の参加者が互いに理解できる言葉で討論し、実りある情報交換をすることを目的としています。

障害のある方、工学・医学・福祉・教育・行政などの関係分野の方だけでなく「リハビリテーションのための工学技術の応用」について興味をお持ちの方は、ぜひご参加ください。

なお、このカンファレンスはリラックスした雰囲気での討論することを大切にしていますので、気軽な服装でご参加ください。

開催日：2003年8月28日(木)～8月30日(土)

なお、カンファレンスの前後に日本リハビリテーション工学協会各 SIG 主催の講習会が予定されています。

会 場：栃木県総合文化センター 栃木県宇都宮市本町 1-8

(JR 宇都宮駅よりバス利用で約 10 分)(東武宇都宮駅より徒歩 5 分)

主 催：日本リハビリテーション工学協会

参加費：未定

お問い合わせ：第 18 回リハ工学カンファレンス事務局 <http://www.iuhw.ac.jp/jcaart18/>

〒324-8501 栃木県大田原市北金丸 2600-1

TEL 0287-24-3145 FAX 0287-24-1347 E-mail [jcaart18@iuhw.ac.jp](mailto:jcaart18@iuhw.ac.jp)

第 30 回国際福祉機器展 H.C.R.2003 開催要項

期 日：平成 15 年 10 月 15 日(水)～17 日(金)【3 日間】

開場時間：午前 10 時～午後 5 時

会 場：東京国際展示場「東京ビッグサイト」東展示ホール(東京都江東区有明 3-21-1)

入 場 料 無 料

主 催：全国社会福祉協議会 保健福祉広報協会

後援(予定)：厚生労働省 経済産業省 総務省 東京都 海外参加国大使館

協賛(予定)：(順不同) みずほ教育福祉財団、キリン福祉財団、清水基金、みずほ福祉助成財団、松翁会、丸紅基金、三菱財団、損保ジャパン記念財団、NHK 厚生文化事業団、読売光と愛の事業団、毎日新聞東京 社会事業団、産経新聞大阪新聞厚生文化事業団、日本経済新聞社、東京新聞、東京新聞社会事業団、福祉新聞社、日本赤十字社、社会福祉・医療事業団、鉄道弘済会、東京都社会福祉協議会、全国心身障害児福祉財団、長寿社会開発センター、シルバーサービス振興会、テクノエイド協会、日本理学療法士協会、日本作業療法士協会、日本アビリティーズ協会、日本障害者リハビリテーション協会、日本リハビリテーション医学会、新エネルギー・産業技術総合開発機構

お問い合わせ：国際福祉機器展 H.C.R. 2003 主催事務局 財団法人 保健福祉広報協会

〒100-8980 東京都千代田区霞が関 3-3-2 新霞が関ビル

TEL. 03-3580-3052 FAX. 03-5512-9798 <http://www.hcr.or.jp/>

第 5 回西日本国際福祉機器展

日 程：11 月 13 日(木)～15 日(土)

場 所：西日本総合展示場本館大展示場 JR 小倉駅北口 5 分

参加料：入場無料

主催：西日本国際福祉機器展実行委員会、(財)西日本産業貿易見本市協会

お問い合わせ・お申し込み 西日本国際福祉機器展事務局

〒802-0001 北九州市小倉北区浅野 3-8-1 TEL093-511-6848 FAX093-521-8845

<http://www.nishiten.or.jp/fukushi/> E-mail: [fukushi@nishiten.or.jp](mailto:fukushi@nishiten.or.jp)

(6) その他

書籍に関して

交通エコモ財団では、現在バリアフリー関係の書籍、パンフレットを発行しております。ご興味のある方は、当財団のホームページをご覧ください。

**記事募集中!**

現在、次号メールマガジンに掲載させて頂ける記事を募集中です。セミナーのお知らせや、活動報告、エッセイ等々何でも結構です。どしどしお寄せください。掲載をご希望の方は、メールかFAXでお送りください。

エッセイに関しましては、誠に申し訳ありませんが、掲載するか否かは編集担当に一任頂き、謝礼なし、とさせていただきます。

E-mail : ecomomail@ecomomail.jp FAX : 03-3221-6674

**お願い(必ずお読みください。)**

・転送先について

このメールマガジンを発刊してから、多くの方からお申し込みを頂いております。ありがとうございます。おそらく、お読み頂いている方から、更にその他のネットワークに転送して頂いていることがあると思います。現在、どの様な所まで、このメールマガジンをお読み頂いているかを把握したいと考えております。転送して頂いている方は、そのネットワーク、もしくは団体のお名前と人数をお教え頂ければと思います。 E-mail : ecomomail@ecomomail.jp FAX : 03-3221-6674

・送付先について

このメールマガジンをなるべく E-mail で送付させて頂きたいと思っております。アドレスをお持ちの方はご連絡ください。 E-mail : ecomomail@ecomomail.jp FAX : 03-3221-6674

**コラム**

「わんわんパトロール隊」

東京・世田谷で、愛犬家による「わんわんパトロール隊」が発足した。同地区は、平成12年12月31日、強盗による一家4人が殺害されるといういたましい事件があり、まだ、未解決のままとなっている。同地区には犬を飼う家が多く、犬の散歩中に不審者を見かけたら、すぐに警察へ通報してもらおうと警視庁成城署が住民に協力を求めたもの。

昔なら、近所づきあいの中から、ある程度事件は防げたが、大都会の中では近所づきあいは難しいのか、日本人はシャイなのでちょっとしたきっかけがあれば、すぐ仲間にはできると思うが、自分を含めた「地域住民の連携のあり方」を考えさせられる。

先日、非常災害時の障害者の避難行動について、研究している板橋のグループにお会いした。目から鱗が落ちた気分である。これまで、歩道のグレーチングの問題、とか、点字ブロック(視覚障害者誘導用ブロック)とか、公園の車止めとか、点でしか見なかったものが、実際に、災害時に、例えば高層階のマンション・アパートに住んでいる障害者が地上まで降りる場合に、誰がサポートするのか、それから、道路に倒れている自転車や看板等により動けない障害者を誰がサポートとするのかなど、避難所までの移動を点検している。このように隣人のことを考え、そこに住む住民から出てきたプログラムは本当に素晴らしいものばかりである。(岩佐徳太郎)